

第2回子ども国会 宣言書

《前文》

わたしたちは、子どもの意見を社会に反映させてもらうため、第2回子ども国会を開催しました。子どもたちは全国から集まり、二日間、福祉、教育、国際、環境について話し合いました。

今回の具体的な議論内容は以下の通りです。

- | |
|--|
| 福祉：①子どもが住みやすい社会とは
②お年寄りが住みやすい社会と
③障がい者が住みやすい社会とは |
| 教育：①日本と海外における教育の違い
②学校の役割って何？
③エリート教育ってどうなの？ |
| 国際：①戦争と平和
②異文化コミュニケーション
③貧困問題 |
| 環境：①STOP！地球温暖化
②増え続けるゴミ、どう処理する？
③生態系が危ない！ |

わたしたちは、これらのテーマについて子どもの視点から真剣に見つめ、この宣言書に意見をまとめました。

《第2回子ども国会の目的》

世界では、教育を受けたくても受けられない子ども・紛争や環境不備により生きてくても生きられない子どもなど、普段わたしたちが当然のように考えていることが出来ない子どもたちがたくさんいます。また日本においても、理想の教育・社会制度・環境といった社会政策について、考えるべき問題がたくさんあります。

このような問題は、国会議員や官僚といった公務員を中心に大人同士によって議論されることが多いです。しかし、それらの問題に関係しているのは決して大人だけではありません。この世の中で生活している全ての人々に関係するものであり、子どもにとっても大切な問題です。

子どもたちの意見を大人たちに伝え、社会に反映させてもらう機会をつくる。そのような目的で、第2回子ども国会は開催されました。

<福祉>

[子どもが住みやすい社会とは]

今の社会は子ども達にとって住みやすいものでしょうか。家族も協力的でしょうか。私たち「子ども」から考える「子どもの環境」。大人に言わされているわけでない、子ども自身が思う「子どもが住みやすい環境」を考えました。

現状

- ・ 公園や通学路において、子どもたちにとって、危険が多い
- ・ 周りの人のモラルのなさが子ども達にとって住みにくい環境をつくっている

理想

- ・ 子どもが安全に外を出歩ける社会
- ・ モラルのある人がたくさんいる社会

政府にしてほしいこと

- ・ 子どもがモラルを持てる大人になれるような教育を受ける機会の提供
- ・ ネットワーク(地域の連帯)づくりの支援

私たちにできること

- ・ 地域社会が互いに協力をして子どもたちを守れる環境を作る
- ・ 地域でのコミュニケーションを活発化する

【お年寄りが住みやすい社会とは】

日本では今、急速な高齢化が進んでいます。しかし、社会がその流れに対応しているかは別の問題です。実際、社会はこの高齢化のスピードに追いついていません。増えつづけるお年寄りに対応できない状況をあと10年、20年と許すわけにはいきません。

現状

- ・ お年寄りは社会から見放されている
- ・ 核家族化が進み、孤独で寂しい思いをしているお年寄りが増えた
- ・ お年寄りにとって、危険な場所があっても、なかなか改善されない

理想

- ・ お年寄りが見放されない社会
- ・ お年寄りが孤独を感じない社会
- ・ 私たちとお年寄りが互いに、歩み寄れる社会

政府にしてほしいこと

- ・ 施設の増加と充実
- ・ お年寄り同士（特に1人暮らしの人）、話ができる場を設置
- ・ お年寄りの意見を政策に反映
- ・ 安心して生活できるための資金援助

私達にできること

- ・ お年寄りと子どもが交流できる場を持つ
- ・ 気軽に出かけることのできる町づくりをする

【障がい者が住みやすい社会とは】

障がい者も、社会の中心となって生きることができるとこそ、私たち子どもも含め全員の理想ではないでしょうか。「ある社会からその構成員のいくらかの人を締め出す場合、それは弱くてもろい社会である」。この言葉を忘れてはいけません。

現状

- ・ 偏見の目が激しい
- ・ 障がい者が生活する上で不便なことが多い

理想

- ・ 障がい者への理解を深めることでなくなる偏見
- ・ 障がい者が生活しやすい環境

政府にして欲しいこと

- ・ 子どものころからの障がい者に対する理解を深められる教育の実施
- ・ 障がい者と健常者が一緒に活動する時間(授業、単位)の策定

自分達に出来ること

- ・ 障がいに関する確かな知識を持ち、実際に障がい者に触れ合う経験をもつ
- ・ 偏見を持たない、「優しい無視」

<教育>

[学校の役割って何?]

最近、少年事件の凶悪化や学級崩壊の増加が問題とされる中で、学校の役割とは何なのかということが問われています。たとえば、「学校が子どものしつけをする必要はあるのだろうか」、「学校（教師）は何を生徒に教えるべきなのか」。

「教師の質」

現状

- ・ 教師が責任感や情熱を持っていない
- ・ 教員免許に更新制度がないため、教師が担当科目についての先端的知識を持ち合わせていない
- ・ 生徒が教師を尊敬していない
- ・ 勉強する意味を教師が見出せていない
- ・ 教師が熱意を持って生徒に関わっていない
- ・ 教師に対する世間の評価が良くない。

理想

- ・ 教員免許の更新制度を全国的に義務化する。更新の際には教員免許試験各教科の試験を再度受けてもらう。
- ・ 人事権を教育委員会から学校側へ移す。

「教育内容は誰が決めるべきか(学習指導要領は必要か)」

→必要

理由：教育内容に最低基準のラインがなければ、教育の公共性が侵害されてしまうから。

補足：学習指導要領の作成を国に全て任せるのは、実際現場が求める教育から外れる恐れがある。また、国が意図的に生徒へ偏った教育を与える恐れもある。

生徒に学習指導要領の内容を簡易的な書面で伝えるべきである。また生徒や教師の意見も学習指導要領作成時に反映させるべきである。

「どのような教育内容にすべきか」

- ・ 生徒のやる気をあげるような教育にする
- ・ 教師の責任感や向上心があがる
- ・ 勉強する意味を教える
- ・ 夢や目標を見出せるよう、教科などを選択できる環境をつくる
- ・ 世界の様々な文化や同年代の子に触れて成長することができるよう、国際交流の機会を与える

[エリート教育ってどうなの?]

「学力低下を招いた原因の一つは、エリート教育の軽視だ」という意見があります。エリート教育を重視すれば、日本の子どもたちの学力は向上するのでしょうか。また、現在日本で行われているエリート教育（学力別クラス分け等）は適切なのでしょうか。

現状

- ・ 現在の日本の教育システムはエリートが生まれにくい環境である
- ・ 日本には国際社会でリーダーシップを取っていく人間が少ない

理想

- ・ 日本の時代を担うエリートを養成する教育機関を作る
- ・ その教育機関は世界有数の規模とする
- ・ その教育機関は入学に関して年齢制限を特に設けない
- ・ その教育機関の教育カリキュラムは、海外のエリート校などを参考として指導要綱から独立させる

<国際>

[戦争と平和]

戦争で一番傷つくのは弱者です。だから、もちろん私たち「子ども」も大いに傷つきます。家族を失い、生活を失い、時には腕や足を失ってしまいます。どんな正当化された戦争にだって私たちは傷つき、何かを失っていきます。どうすれば平和な世界を築けるのでしょうか。

平和の定義:個人を平等に扱う

現状

- ・ 国が平等に扱われていない
- ・ 武器があつての平和である
- ・ 相互が平等に理解しあえる教育がなされていない

政府にしてほしいこと

- ・ 現地支援には、戦う意思のない人（民間の技術者など）が現地と連携し、行くべき
- ・ 身の安全の保障
- ・ 正しい情報を包み隠さず、子どもに伝える
- ・ 若者が自分達の意見を言い合える場所を作って欲しい
- ・ 国のことだけに精一杯にならず、外交のことなど、外のことにも目を向けて欲しい

私たちにできること

- ・ 海外との交流も持って、友達をつくり、より世界を身近に感じて、平和についてより深く考える

[異文化コミュニケーション]

インターネットに代表されるように、世界はぐっと狭くなりました。今や世界中にメールを送ることができます。しかし、隣国と仲が悪い国々が多いです。どうすれば世界の国々はもっと仲がよくなるのでしょうか。その解決のひとつが「異文化コミュニケーション」ではないでしょうか。

現状

- ・ 国ごとの偏見
- ・ 活用できない勉強言語
- ・ 宗教ごとの認識の違い
- ・ 知ろうとする力が培われていない
- ・ 一方的なコミュニケーション

理想

- ・ 相手の言語を話せる
- ・ 1人ひとりが意見を持ち、それを理解しようとする
- ・ ひとつのことを多面的に考えて、視野を広げる
- ・ お互いの考え、宗教を尊重しあう

政府に求めること

- ・ 文化交流企画の実施と PR
- ・ 政府側と私たちとの直接交流の場

→結果だけでなくそこにいたるまでの経路にもっと時間を割いて欲しい →互いの信頼感を高める

私たちにできること

- ・ 学校内での議論の活発化
- ・ 自分の文化を理解する
- ・ 多くの人に興味を持ってもらう（活動を発表する etc）
- ・ コミュニケーションのための語学学習

【貧困問題】

同じ世界に住む者として、「貧困問題」に苦しむ人々を私たちは無視することはできません。一方では食事を余らしても何とも思わない世界があり、一方では食事が足りなくて苦しみ餓死していく世界があります。これが今の世界の現実です。では、私たちに何ができるのでしょうか。

現状

- ・ ストリートチルドレンや教育を受けられない人の存在
- ・ 人身売買、児童買春、児童労働、失業、H I V、公衆衛生などの問題
- ・ 貧困問題への意識が低い
- ・ 豊かさへの感謝が少ない

理想

- ・ たくさんの国が豊かに
- ・ 全ての子どもたちへの教育
- ・ 南北／南南問題（貧富の格差）の解決
- ・ 自分を大切にできる社会
- ・ 清潔な環境
- ・ 衣食住がそろっている
- ・ 貧困問題に関心を持つ

政府にしてほしいこと

『相手国に対して』

- ・ 国家としての責任を果たすように、また汚職をしないように促す
- ・ 上からの開発だけでなく、NGOと提携する
- ・ 支援金を本当に困っている人へ

『日本に対して』

- ・ 世界の現状を国民に知らせる
- ・ 子どもの能力を認めて
- ・ ODAによる援助を適切に行って欲しい
- ・ 目先の利益ではなく、全世界レベルの未来の利益を追求して！！
- ・ NGOが活動しやすいようにして欲しい
- ・ ハートのある政治
- ・ 軍事費を別のものに活用する

自分にできること

- ・ 草の根団体に入る
- ・ 知ること、伝えること
- ・ 募金活動やリサイクル活動
- ・ 中学生革命

<環境>

[STOP! 地球温暖化]

京都議定書。現在の地球環境を取り巻く問題に対し、世界規模での最もホットな話題でしょう。しかし、地球温暖化の原因も明確でない現在、最善の取り組みとして改善策を実施することは事実上不可能です。しかし、何もしないわけにはいきません。今できることは、改善の可能性のあるものを試行錯誤取り組むことです。こうした状況から、身近なテーマに対応策をまとめました。

[増え続けるゴミ、どう処理する?]

わたしたちの生活から日々、直接的に環境問題と関わっているものは何でしょうか。その代表格として「ゴミ問題」があります。そしてこのゴミ問題ほどわたしたちの手で解決できる問題もないのかもしれませんが。「リサイクル」や「分別」から始まり、わたしたちはこれからもこの問題を考えていかなければなりません。

[生態系が危ない!]

日本で2件目の自然世界遺産登録で話題となった知床。このニュースの裏には、地球上の生態系バランスが危ういということが見え隠れしています。自然と人間の共存が叫ばれている今、わたしたち人間はどのように自然と付き合い合っていけば良いのでしょうか。

現状

- ・ 資源の無駄使い
- ・ 環境問題に対する意識が低い
- ・ 広報がわかりにくい

例) 政府のホームページやテレビなどで伝わっていない。子どもに伝わらない。

理想

- ・ 環境に対する政府の情報が伝わりやすい社会
- ・ 政府と国民との間に壁がない社会
- ・ 一人一人が問題を認識できるような社会
- ・ 資源を大切にし、公害のない社会

政府への要望

- ・ My袋・カップなどの利用を多くするために、法整備を進める(有料化・環境税)
- ・ 危機感が感じられず、行動しない人が多いので、もっとわかりやすい情報を提供して欲しい。その方法として民間メディアなど身近なものを活用して欲しい。

私たちにできること

- ・ My運動をすすめる。(無駄遣いをやめ、MyカップやMyバッグを持つ)
- ・ 危機感を感じ、環境に対する意識を高める
- ・ 身近なところでの環境活動(イベントなど)

わたしたちは、以上の意見を実現させるため、力を合わせて活動することを誓います。また、この宣言書を読んでくださったあなたがわたしたちの意見に賛同し、その実現のために活動していただけることを願います。

わたしたちは、責任を持ってこの宣言書に署名します。

子どもの意見が社会に反映されることを願って。

2005年8月26日 第2回子ども国会 参加者一同